

平成27・28年度 台東区教育委員会研究協力学校

# 21.5世紀を拓く

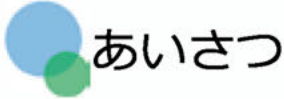
～アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業づくり～



平成29年1月20日



台東区立黒門小学校



## あいさつ

台東区教育委員会 教育長 矢下 薫

次期学習指導要領では、子供たちの現状と課題を踏まえつつ、人間が学ぶことの本質的な意義や強みを捉え直し、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えた学習内容に改善していくことが掲げられています。

台東区教育委員会におきましても、「学校教育ビジョン」並びに「アクションプラン」を策定し、学校・園、家庭、地域のまち全体で子供たちを教え育み、生きる力と確かな学力を身に付けた心豊かな子供を育むことを目指しております。

そのような折、台東区立黒門小学校では、平成 27・28 年度台東区教育委員会研究協力学校として、研究主題を「21.5 世紀を拓く～アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業づくり～」と設定し、各学年の発達段階を考慮しながら子供たちに育みたい資質や能力を明確にして授業実践を進めてこられ、子供たちの学びを深めるための具体的な手だてを数多く考案してくださいました。

各学校におかれましては、本校における取組や研究・実践発表の内容を教育活動に取り入れることで、より一層子供たちに未来を生き抜く確かな力を育成していただけるものと確信しております。

最後になりましたが、本校の研究を推進するにあたり、丁寧な御指導・御助言を賜りました講師の先生方に心から感謝申し上げます。また、本校の研究に熱心に取り組んでこられました、千木良康志校長先生、そして教職員の皆様方の御努力に対しまして、深く敬意を表します。



## いま、ここからはじまる！

台東区立黒門小学校 校長 千木良康志

台東区立黒門小学校では、これまでの研究の成果を踏まえつつ、激しい変動が予想される未来社会を 2050 年（21.5 世紀）と具体的に位置付け、子供が新たな知を拓くために必要な資質・能力を育成する「21.5 世紀を拓く」黒門教育の推進に努めてまいりました。

我が国は、知識基盤化やグローバル化の進展、雇用環境の変化など、多岐にわたる課題に直面しており、先行きの不透明感や人間関係の希薄化が進みつつあります。そういった中で、東日本大震災をはじめとする災害を教訓とする人と人との絆の大切さが改めて見直されてきました。

このように変化の激しい時代においては、未来への課題を踏まえ、夢と志をもち、互いに磨き合い、様々な分野において豊かで創造的な知性を発揮し、主体的に未来を生き抜く力を身に付けた子供を育てることが大切です。また、人間性豊かな社会を築くためには、多様性を認め合い、他と協働し、共に支え合う人間関係を育てることが求められています。

黒門小学校では、「学校は人との関わりを通して、その有効性を実感し、より多くの人が自分の仲間であることを学ぶ場」という学校観と「子供たちは有能である」という子供観に立ち、研究に取り組んできました。そして、それは、「かしこさ／自立・自律」「ひらめき／創造」「かかわり／共生」というキーワードを生みました。

私たちの黒門小学校は、直近の 5 年間で 5 回の研究発表会を行いました。平成 24 年度「めあてをもって学び合う子の育成」（台東区教育委員会研究協力学校）。平成 25 年度「運動の楽しさや喜びを味わい、意欲的に実践する力を身に付ける体育学習」（全国学校体育研究大会東京大会）・台東区オリンピック・パラリンピック教育実践報告会。平成 26 年度「21.5 世紀を拓く～よい授業の追究を通して～」

（台東区教育委員会研究協力学校）。そして、今回の研究発表会です。振り返ってみると、全ての研究が「Teaching から Learning」を目指した本年度の研究につながっているように感じています。

今回、平成 27・28 年度台東区教育委員会研究協力学校の指定を受け、「21.5 世紀を拓く～アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業づくり～」という研究主題のもと、研究を進められたことが、黒門教育の一層の充実につながるとともに、台東区の教育や子供たちの学びに一石を投げられたと考えております。

このような貴重な機会を与えて下さいました台東区教育委員会をはじめ、4 年間にわたり年間講師として御指導下さいました中田正弘先生、シンポジストの田村学先生・阪口正治先生に衷心よりお礼申し上げます。



# 研究のグランドデザイン

## 将来の姿

### かしこさ (自立)

自己管理、省察力  
見通し、判断  
情報処理・活用

### ひらめき (創造)

創造への関心・意欲  
活用力、表現力

### かかわり (共生)

思いやり、認め合い  
コミュニケーション  
チームワーク



<21.5世紀の社会状況の予測>

- ・ICT化、電子化、ユビキタス社会 ・知識基盤社会
- ・少子高齢化 ・生産性の低下 ・グローバル化
- ・多人数社会 ・人と人との関わりの希薄化

教科等で育成すべき  
三つの資質・能力

個別の知識・技能

学びに向かう力  
人間性 等

思考力・判断力  
・表現力 等

主体的で  
対話的で  
深い学び

学習



現在の子供たち

<研究仮説>

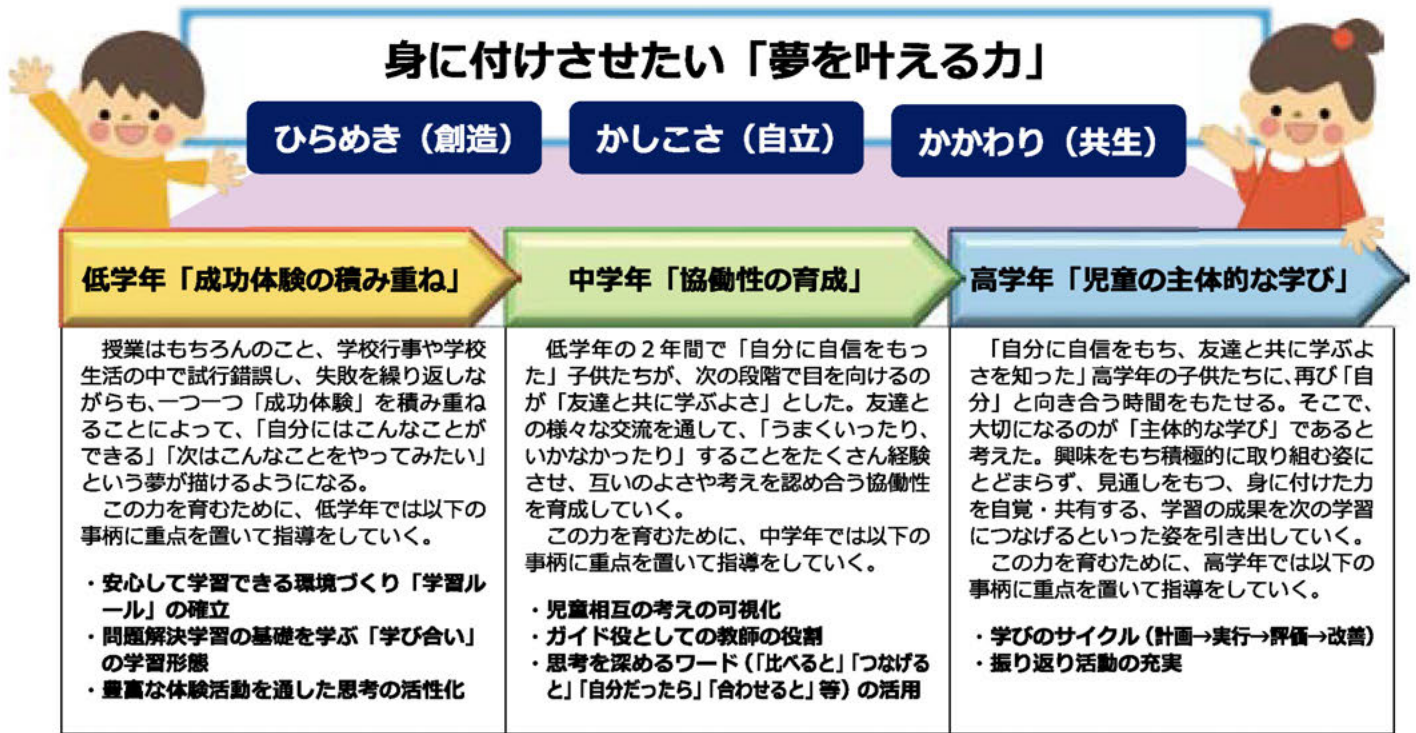
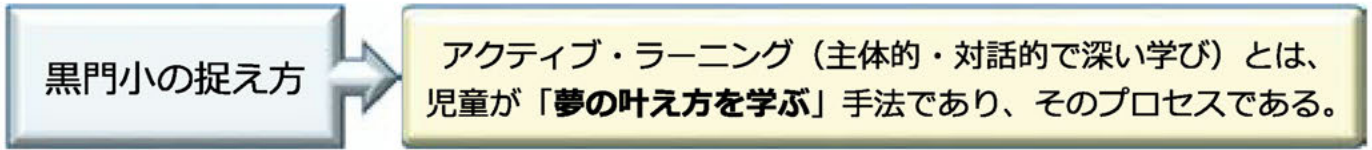
アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点を取り入れた授業を実践し、積み重ねることで、児童が21.5世紀をよりよく生きるために必要な資質・能力が身に付くであろう。

<21.5世紀をよりよく生きるために必要な資質・能力と、目指す児童像>

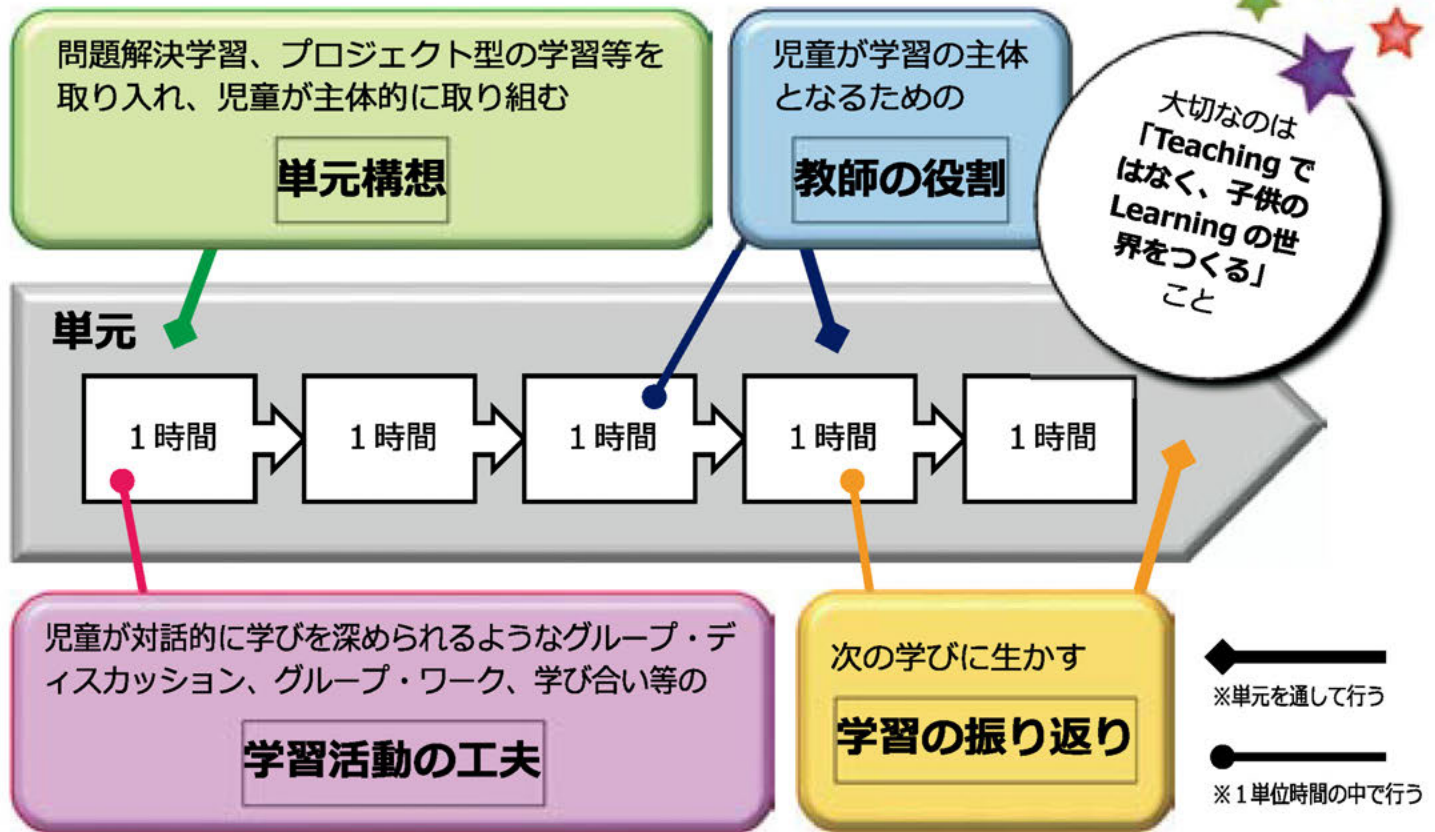
		ひらめき (創造)	かしこさ (自立)	かかわり (共生)
21・5世紀をよりよく生きるために必要な資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○よりよいものを創造しようとする関心・意欲</li> <li>○知の活用力（発想する力・つなぐ力・表現力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己管理能力</li> <li>○自立性・自律性</li> <li>○省察力</li> <li>○先を見通し、自ら考え、判断する力</li> <li>○情報処理・活用力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手を思いやり、認め合う心</li> <li>○折り合いを付けられるコミュニケーション能力（合意形成力）</li> <li>○チームワーク</li> </ul>
	目指す児童の未来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の考えを整理したり、比較したり、関係付けたり、置き換えたりすることができる。</li> <li>○既存知を活用して、新しい知にたどりつくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な課題解決への意識をもっている。</li> <li>○課題を発見し、課題に対して見通しをもち、自ら追究し解決できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との関わりを通し、自分の考えを再構築できる。</li> <li>○互いを尊重し合いながら自己表現ができる。</li> </ul>
目指す児童像	高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の既存知を活用して、より豊かな知、新たな発想を生み出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して見通しをもち、自ら考え解決できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との対話を大切にし、自分の考えを再構築したり、表現できたりする。</li> </ul>
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えや友達のを整理したり、比較したり、関係付けたり、置き換えたりして、よりよい考えを発見することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決に向け見通しをもって取り組み、自分の考えをもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いのよさや考えを認め合い、折り合いを付けることができる。</li> </ul>
	低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えと友達のを比べて、もう一度自分の考えや方法を見直すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を理解して、それを解決する方法をこれまでの経験の中から選び出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の話をよく聞いたり、自分の考えや思いをはっきり伝えたりすることができる。</li> </ul>

# 研究の内容と方法

## ●資質・能力の育成に欠かせない「アクティブ・ラーニング」



## ●「アクティブ・ラーニングの視点」を取り入れた授業づくり



## 各学年の実践より

1年生

算数科  
かたち  
あそび

いろいろな箱や容器の形を生かして、高いタワーを作ります。

ただ単に「高いタワーを作ろう」ではなく、「黒門小で一番背の高い担任の先生より高いタワーを作る」という、「思考を活性化させる問い」を出しました。

前時に子供たちが箱や容器でつくった椅子や車などを振り返り、そこに完成のヒントがあることを伝え、早速作成開始です。



スタート



箱の特徴などに気を付けながら作成したことを発表し合い、全体で共有します。

「なぜ?」「どうして?」の問いを大切に、活動をしていく中で答えを見つけていくことを確認しました。

ゴール



箱や容器の形や特徴に着目しながらタワーを作っていきます。「スカイツリーや東京タワーが、未広がりになっている」との特徴を捉え、同じように未広がりになるように組み立てます。

具体物を用いた算数的活動の中で、試行錯誤を繰り返すことで、子供たちの豊かな発想を引き出し、深い学びへとつながりました。

低学年の「夢を叶える力」

## 成功体験の積み重ね

2年生

生活科  
生きもの  
なかよし  
大作せん

ザリガニの観察をする授業です。始めに教師がザリガニクイズを出して、子供たちの思考を活性化させます。

クイズの答えを考える中で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べる時間ももち、科学的なものの見方や考え方の素地を育てていくことを大切にしました。



スタート



ゴール

続いて観察タイムに移ります。視点をもって観察するおもしろさに気付いた子供たちは、次々と「ザリガニの不思議や秘密」を見つけていきます。体験活動の中での試行錯誤が子供たちの豊かな発想を引き出し、深い学びへとつながりました。

見つけた不思議や秘密を発表し合い、全体で共有します。「なぜ?」「どうして?」の問いを大切に、飼育をしていく中で答えを見つけていくことを確認しました。

教師が  
アクティブ  
になる  
研究協議会

ねらいに応じた「よい授業」となったかどうかを検証するために、研究協議会のもち方を工夫した。

ワークショップ型・授業実践リフレクションを取り入れ、授業者及び参観者が対話的に授業を振り返ることができるようにした。

### その1

授業観察において、効果的もしくは課題と感じた授業場面の、教師と子供の行為・発言・つぶやき・記述などの事実を記録する。

### その2

授業記録を付箋に記す。(効果的と感じたことは青色、課題と感じたことは桃色、それぞれ根拠となる事実は黄色付箋)

3年生

### 社会科 わたしたちの まちの工場 たんけん

くつ工場で見学したことを再構築する授業です。まず、学習計画表を基にめあてを確認します。そして、本時の流れとこの時間で「身に付く力」を確認します。

次に、前時の学びを振り返り、よいまとめ方や話し合い方を教師が紹介し、本時につながるようにしました。

工夫や努力、願いについて紙芝居に取り入れたい内容をまとめる時間です。一人で考えた後、グループで話し合い、考えを深めました。

調べたことを話し合いながら、模造紙にまとめをしていきます。本時では働く人々の工夫や努力、願いについて再構築しました。調べた事実や既存知をもとに考える活動になっています。

教師はこの時間、まとめ方や考えのよさを評価して回ります。また、活動が停滞しているグループのガイド役となり、必要な助言や整理をします。

よい記述を全体に紹介します。児童の視点を広げ振り返る力を育てます。

ゴール

スタート

個人やグループの考えの深まりを振り返るポードフィリオ

本時の学習の振り返りです。自身の学びを振り返りました。これまでの学習がパネルにあるので、すぐに見ることができます。

## 中学年の「夢を叶える力」 協働性の育成

4年生

### 国語科 一つの花

読み取りの授業を行いました。まず、この時間で「身に付く力」を確認します。次に、前時の学びを振り返り、よいまとめ方や話し合い方を教師が紹介します。こうすることで「今日何を学ぶのか」、子供たちが見通しをもてるようにしました。

読み取りの最初は、自力解決です。登場人物の気持ちを表す表現にサイドラインを引いたり、叙述から考えたことを付箋に書いたりして、一人一人考えを深めていきました。

話し合いには模造紙を使います。それぞれの考えを比較したり、関係付けたりすることが容易になります。

最後は、また一人に戻り、交流して考えたことを書き出します。この時間を「再構築」と呼びます。自分の考えを再構築することで、深い学びが実現できるのです。

次は「思考を共有する時間」です。グループの友達と話し合い、考えを伝え合い、新しいものの見方や考え方を得ることがねらいとなります。書き出した付箋を分類したり、前時の学びが書かれた模造紙と矢印でつないで関連付けたりしながら、学習する姿が見られました。

スタート

ゴール

### その3

協議会では、小グループで付箋に記入した事実を基に、ディスカッションをする。その中で関連付けを線で結んだり、付箋を移動させて分類したりする。



グル全体に。プレゼの論点スカッ

5年生

### 国語科 学級討論会 をしよう

スタート



「話す・聞く」の授業です。立場を決めて話し合い、様々な意見を聞きながら、自分の考えを深めていきます。

論題は「大人より子供の方が得である」です。双方がそれぞれの立場で立論します。ここでは、理由や根拠をはっきりと伝えることが大切です。



作戦タイムでは、審判グループも積極的に話し合いをします。双方が用意した資料について評価をしたり、「自分たちの時はこうしよう」と話し合ったりと、「全員参加」「全員で学ぶ」授業を目指しました。



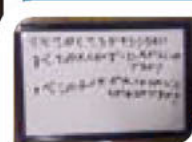
今回は「反対派」が勝利



「いい流れだぞ！がんばろう！」つぶやきや会話の中に、子供同士の豊かな関わり合いが生まれます。



作戦タイムでは、ホワイトボードを活用しました。素早く話をまとめることに効果的です。



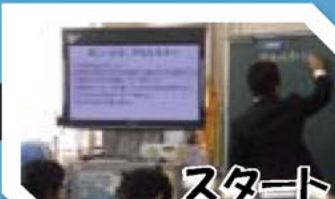
ゴール

最後に全員が「自分の学び方」と「自分の思考の流れ」について客観的に振り返る時間をもちます。次の討論に向けて学びのサイクル（計画→実行→評価→改善）を大切にしました。

## 高学年の「夢を叶える力」 児童の主体的な学び

6年生

### 社会科 新しい日本 平和な日本へ



スタート

「太平洋戦争後の改革で、日本はどんな国づくりを目指したのか」について考える授業です。

学習課題は事前に issuance、「反転学習」として各自が調べたり考えをまとめたりしてから授業に臨みました。

「大日本帝国憲法と日本国憲法の違いは何だろう…」資料を使って調べ、事実をつかみます。

つかんだ事実を基に、今日の学習のまとめをします。事前に学習してきたこと、今日の授業で学習したことから学習課題についてまとめました。



それぞれの考え、キーワードを小さな紙に書き出し、話し合いながらまとめていきます。みんなの考えを練り上げていく活動になっています。



ゴール

グループから出た考えを、もう一度全体で見直し、練り直します。みんなて話し合った結果を基に、自分の考えを再構築します。



最後は「振り返り」です。「今日の学習でわかったことから考えたこと」「次の学習に向けて」を記述します。

記述したことはみんなで見合いました。見合うことで新たな気付きが生まれるのです。

### その4

グループで協議したことをプレゼンテーションするファシリテータが、このプレゼンテーションから共通を見出し、全体のディレクションにつなげる。



### その5

ファシリテータ、講師によるまとめを行う。

このようにすることで、発問や資料提示の仕方などを構造的に捉え、「よい授業」ができたかどうかを検証するとともに、授業改善に生かすことができた。

### ○ひらめき（創造）

- <成果> ◇「単元を通した問い、一単位時間の問い」を工夫したことで、児童が意欲をもって学習に取り組むことができた。
- ◇ポートフォリオとしてまとめたり、反転学習やプロジェクト学習などの実践をしたりしたことで、学習する内容と、蓄積した知識やこれまでの経験等の既存知がつながり、児童の「深い学び」を実現することができた。
- <課題> ◆思考を活性化させる問いや反転学習における、課題設定の仕方や問いの質などの吟味・精選が必要であった。
- ◆児童同士が次の学習につながる課題に気付く、振り返り活動の工夫が必要であった。

### ○かしこさ（自立）

- <成果> ◇学習過程を可視化したり、振り返り活動を充実させたりしたことが、見通しをもって学習することにつながった。見通しをもって課題の達成に向けて取り組むこと、自己の学習活動を振り返って次につなげることは、「主体的な学び」の実現のために有効であった。
- ◇単元全体や本時を通して、児童に「身に付く力」を示したことで、「主体的な学び」へのモチベーションを高めたり、振り返りの視点となったりすることにつながった。
- <課題> ◆「身に付く力」を、児童が分かりやすい言葉にして示したり、児童が身に付いたと思ったことを価値付けしたりすることが、今後さらに必要となる。

### ○かかわり（共生）

- <成果> ◇教師が全体に広がるつづやきを行ったり、対話的な活動の場面で助言や整理を行ったりするなど、教師がガイド役になることが、アクティブ・ラーナーを育てる「対話的な学び」につながった。
- ◇学習するためのルールや、話し合いの仕方など「教えるべきことは、しっかり教える」ことが、児童の成長につながった。
- <課題> ◆児童同士の折り合いの付け方を学ぶためにも、対話的な活動の経験を積み重ねることが重要である。

御指導  
いただいた  
講師の先生

帝京大学大学院教職研究科 教授 中田 正弘 先生



研究に携わった教職員

#### ◆平成 28 年度

校 長	千木良康志		
副 校 長	瀧島 和則		
1 年	○本間 忠明	星野明日香	
2 年	村松 真帆	◎飯田 泰	
3 年	○松本 大将	加藤 恭子	
4 年	○海野 慧一	川畑 裕子	
5 年	○初谷 京子	平山 陽介	
6 年	○池田 直亮	板井 信孝	
音 楽	○齋藤 弥生		
図画工作	○平塚 香織		
算数少人数	宮武 亜希		
養 護	橋詰 智子		

きこえとことば	林 さおり	菊池 理恵
	小瀬川智一	山岸 正太
	福井 珠希	金子 清輝
	湯原 明子	
学校事務	丸 康夫	
栄 養 士	飯田 里子	
講 師	鈴木 和子	小栗 歩
	豊田 啓孝	中村 典子
	篠原くみ子	
支 援 員	鈴木 祥子	氣田 安代
図書司書	松野 小波	
功・助かたろ	脇川 貴臣	橋立 藍子
産 育 休	深町奈緒子	宮崎 美幸
	飛澤久並子	

#### ◆平成 27 年度

本多 泰介	依藤 亜矢	椎名 景子	松井 伸一	田中 幸	谷 直人
-------	-------	-------	-------	------	------

◎研究推進委員長 ○研究推進委員